２０２２年　７月号

関東学院六浦こども園

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ　奉仕せよ

聖　句	：はじめに神は天地を創造された。　（創世記　１章１節）
保育目標：０歳児	・水や砂・泥などに触れ、夏の遊びを楽しむ。
１歳児	・自分の思いを周りの大人に受けとめられて、自分からやってみようとする。
２歳児	・夏ならではの遊びを楽しみ、やってみたいことをみつける。
３歳児	・自分の思いを保育者や身近な友だちに態度やことばで伝えようとする。
４歳児	・遊びの中で表現することを楽しむ。夏を感じて心身を開放して遊ぶ。
５歳児	・遊びの中で探求することや交わることを心ゆくまで楽しむ。夏を感じて心身を開放して遊ぶ。 祈りの時に共にいてくださるイエスさまを感じて「アーメン」と声を合わせる。

梅雨の雨続きではないもののすっきりとしない空もようの日が多く、快晴の夏が待ち遠しく思います。今年はどんな夏になるのでしょうね。

先日は年長組の子どもたちとお泊り会を行うことができました。様々な状況の中、年長組の保護者の皆さまはもちろんのこと他学年の皆さまにもご理解ご協力をいただきありがとうございました。前日年中や年少の子どもたちも『自分のクラスの部屋に年長さんが泊まる』と聞いてせっせとクラスの片づけをしたり自分も一緒にワクワクしてみたり…皆が年長さんに思いを寄せている雰囲気を感じました。いろいろな人たちの『おかげ』で、また『支え』があってこそのおとまり会だということを心から思わされました。

さてお泊り当日はお家の方と別れる際に涙したり曇り顔で部屋に入っていく人もいれば、はつらつと荷物を抱えていく人も…。それぞれの想いが表れていました。不安を抱えながらお泊り会に突入した人もチームの活動に入る頃には自分で折り合いをつけ「やってみようかな」とギアを入れ直している様子が見られました。

環境の変化に緊張しやすい A 君はチームと少し離れたところで「行ってきます。」をしました。準備する中で「泊まる」かどうか周囲も迷い、当日私自身も「どうなることでしょう」と心づもりしながらＡ君を迎え、活動に入りました。室内に入ると普段と違うことに気づき、いつものクラスとチームの部屋を行き来しながら自分自身で折り合いをつけようとしているように見えました。時折、不安な表情やしぐさは見せるものの大きく崩れることもなく散歩や活動に参加する様子を見て、「きっとやれるだろう」と思わせてくれる場面もありましたが、「ご飯は食べたくない」「着替えもちょっとヤダ」といろいろな想いを表現し、紆余曲折しながらも一晩を過ごしました。帰る頃Ａ君にくたびれた姿が見られ少し心配にもなりましたが、無事に過ごせたことに心の底から感謝しました。

きっとＡ君にとっては想像もつかない２日間の園生活だったことでしょう。けれども布団に横になるとウトウトとしてすぐに寝入っていく姿や朝のおにぎりを気力で食べようとする姿に出会った時、腰を据えてＡ君が家庭やこの園で生活していたということに気づかされました。活動に沿う姿やこちらの投げかけに応じる姿から「もう少し参加してもいいよ」という合図をＡ君からもらっているように感じました。きっとこれまで『こう』じゃないと前に進めない、『そう』せざるを得なかった場面も沢山あったことでしょう。けれど、周囲の大人が「それでもいいよ」と「いつか…」を信じてＡ君の気持ちや生活リズムを尊重し続けたからこそ、家庭以外の場所でも揺らぐことなく自分の力として発揮されたのだと、A 君の底力を見せつけられた思いでした。

人はそれぞれ集団社会の中で思い通りにいくことといかないことに出合いながら、その時その瞬間に「きっとこれが良いだろう」と考え選びながら進んでいきます。子どもたちもひとりの『人』として自分や周囲を感じ考えながら必要な選択をして生活しています。子どもが考え選んだことを大人は心から頷きその通りに後押しすることが難しい場面もありますね。日々の園生活でも子どもが選び取ったことに大人が関与して判断したくなることは山ほどあります。でも危険が伴わず可能な限り、その選択を尊重し「それでもいいよ」「自分が考えたこと堂々とやってみて」「なにかあったらいつでも助けます」という心を備えながら子どもたちの隣に存在する保育者でありたいと思います。「いつ」になったら解決するんだろう、「いつ」まで待てばいいのだろうと大人は迷いの連続ですね。そんな時は是非ご一緒に考えさせてください。すぐには見えない育ちの証が「いつか」感じられることを信じて共に歩みたいと思います。

幼児主任　千葉　綾子